001

教員特別研究（重点目標研究）成果報告書 | 配分研究費：2,215千円（令和2年度～令和3年度）

コーヒーの廃棄物を活用した新たなフェアトレード商品開発に関わる実践的研究

目的・概要

フェアトレードのトレンドは、貧困削減から環境保全へと広がりつつある。本研究は、コスタリカを対象に、コーヒーの生産過程で生じる廃棄物（果肉や果皮など）を活用した、新たな商品開発を行うことを目的とする。研究上の特徴は、①文化政策・デザイン両学部の教員と学生が協働で行ったこと、②商品開発にあたっては、原料調達、輸入、加工、市場調査、パッケージデザイン、販売に至るまですべての行程に関わったことである。

期間

令和2年4月1日～令和4年3月31日

研究担当者

文化政策学部　国際文化学科　准教授　武田　淳（研究代表者）
デザイン学部　デザイン学科　教授　日比谷　憲彦
文化政策学部　国際文化学科　教授　下澤　嶽

スケジュール

令和2年4月～9月	COVID-19の流行に伴う調査計画の見直し。論文執筆１編。
令和2年10月～3月	パッケージグラフィック分析、商品ロゴ１の作成、試作品開発。シンポジウムでの発表２件、書籍（共著）執筆１編。
令和3年4月～9月	パッケージデザイン２種、ポスター２種、リーフレット１編作成。市場調査の実施。オンライン現地調査、輸入交渉の実施。論文・書籍３編執筆。
令和3年10月～3月	販売店との交渉、商品製造、プレスリリース、取材対応。翻訳書２編の執筆、報告書１編の執筆、ポスター１編作成。

研究成果

【実践活動としての成果】
地元企業との連携を経て、成果物としてカスカラティー（コーヒーチェリーティー）を商品化し、静岡県内のフェアトレードショップ３店舗および本学大学生協にて販売を継続している。
【研究活動としての成果（デザイン）】
コーヒーやお茶などのパッケージグラフィック分析を実施した上で、２つのパッケージデザインを作成した。併せて、ポスター３種類、リーフレット１編、ロゴ１種を作成した。なお、デザインの作業は、日比谷教授の指導のもと学生が作成した。
【研究活動としての成果（論文など）】
学術論文３編、書籍（共著）２編、翻訳書籍（電子書籍）２編、報告書１編、短報２編、発表（シンポジウム）３本などの成果を上げた。このうち、学生メンバーは、学術論文１編、翻訳書籍２編、発表２件に携わった。各業績の詳細は武田研究室のHP（https://jun-takeda-lab.com/）にて公開している。
【市民への研究成果の公表】
販売促進イベントを４回実施し、学生たちが直接研究成果を披露した。また、新聞社４社、ウェブマガジン１社、テレビ局１社の取材および本学webサイトを通じて本研究の情報発信を行った。

今後の研究成果の還元方法

【実践活動】
フェアトレードは継続性が重要であることから、成果物（カスカラティー）の販売は今後も継続していく。具体的には、商品のOEM化が実現し、静岡市のフェアトレード企業Teebomによって製造・販売が継続されるに至った。2022年8月にはインターネットによる販売も始まった。
（https://fairtradeteebom.com/shop/item/6898/）
このように、大学発の商品を実社会へ普及させたことが成果還元の一つである。他方、カスカラティーの味やパッケージの改良作業といった研究開発にかかわる機能は大学内に残す。学生サークル「りとるあーす」を主体としながら実践を継続し、研究代表者および分担者も適宜協力を行う。
【研究活動】
前項の通り大方の研究成果はすでに発表済であるが、これに加えて日本環境学会主催のセミナーでの発表が決定している。